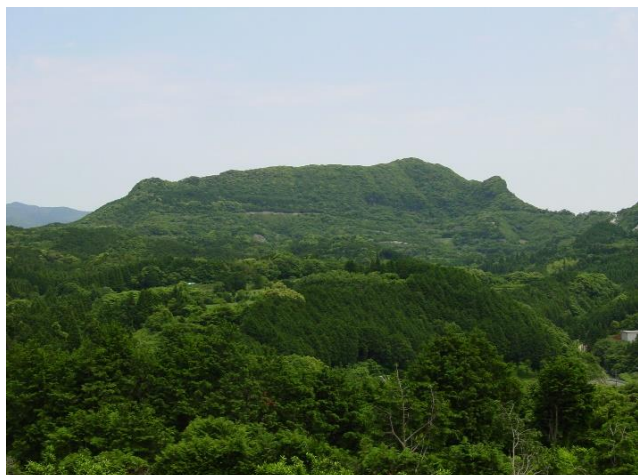


県指定史跡 岸岳城跡



種別	佐賀県指定史跡
所在地	唐津市北波多稗田帆柱、岸山城 相知町佐里、坊中国有林 Google Mapで表示
指定年月日	平成8年（1996）11月15日

岸岳城跡は、唐津市北波多と相知町にまたがる岸岳（標高315m）の山頂から山麓にかけて広がる中世に築かれた山城で、上松浦党（かみまつらとう）の盟主的な地位にあった波多氏の本城でした。城の規模は中世山城としては佐賀県下最大級で、岸岳の急峻な地形を利用して築かれています。

波多氏は豊臣秀吉の九州平定以後、領地の安堵を受けていましたが、天正20年（1592）に始まる文禄の役の際に改易処分を受け、唐津の地には寺澤(てらざわ)氏が入部することとなりました。寺澤氏は関ヶ原合戦の際に西軍であった鍋島氏に相對するため、城に石垣を築いて大規模な改修を行い、唐津城の支城として生まれ変わらせました。

城はその後、17世紀後半代には廃城となっていたようですが、その後も城番が置かれ、唐津藩の管理下に置かれていました。

岸岳城築城の時期は定かではありませんが、当初は自然地形を活かした簡素なものと考えられます。現在の縄張り構造は、織豊系の築城技術によるもので、寺澤氏による改修が想定され、さらに山頂部の主要な曲輪が、いずれも割石を用いた石垣によって積上げられていることから、慶長期後半以降に構築されたと考えられます。

岸岳城跡は佐賀県下最大級の中世山城であるだけでなく、関ヶ原合戦後も佐賀県北部地域に戦乱の火種がくすぶっていたことを示す重要な証なのです。

問い合わせ

生涯学習文化財課

〒847-0013 佐賀県唐津市南城内1番1号

大手口センタービル6階

電話番号：0955-72-9171